

○報告書

日 時：平成 30 年 10 月 11 日（木）～12 日（金）
会 場：長岡市（シティーホールプラザ アオーレ長岡）
行政視察：酒造のまち摂田屋地区コース
参加者：江村卓三

○開会式（10 月 11 日 9 時 30 分～）

・基調講演「地方分権へのまなざし」

東京大学史料編纂所教授 本郷 和人

私たち日本人は、小学校の時から、「古代の昔から日本は統一国家であった」という歴史教育を受け、ひとつの民族、ひとつの言語、ひとつの国家を形成してきたのが、日本であると教えられてきた。そして、都を核としてまとまる中央集権の国だったのかを中心に、1) 地方行政の形骸化、2) 地域の特色、3) 武士と地方の観点から講演がありました。

・主報告 「長岡市の市民協働」

新潟県長岡市長 磯田 達伸

はじめに、長岡市の紹介がありましたが、国内外から 2 日間で 100 万人が訪れる長岡まつり大花火大会は「日本三大花火」のひとつに挙げられ、その花火には長岡空襲への慰霊、復興、平和への祈りが込められているそうです。

最近では、新潟県中越地震の復興に向けたまちづくりを進めてきているそうです。

そのまちづくりですが、長岡市は 150 年前の北越戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡藩に見舞いとして百俵の米が送られてきましたが、分配せずに教育の大切さを説いて学校の設立資金に充てたことから、「何事も基本は人。人づくりこそすべての根幹である」という考え方が、現在の長岡のまちづくりにも活かされているそうです。

市民協働の推進ですが、平成 24 年 6 月に市民協働条例を制定した時も、市民と行政がお互いの長所を持ちより、補い合うことで課題を解決し、まちづくりを進めていくのが「長岡の協働」だそうです。

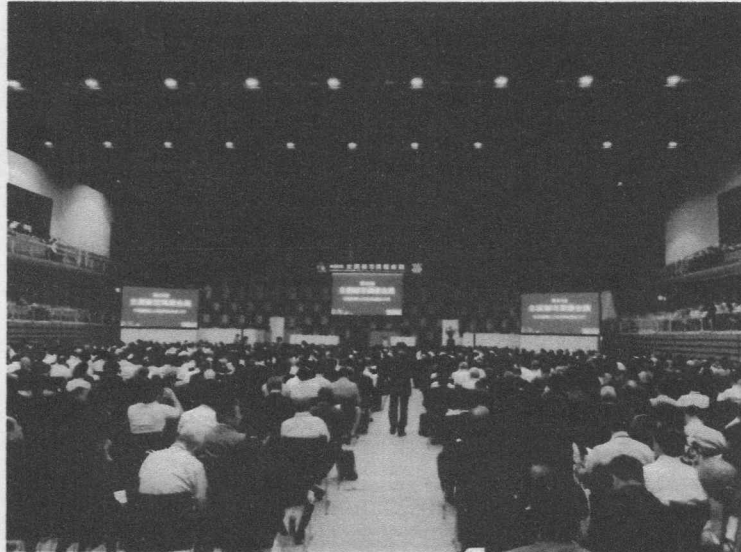
会場となりましたアオーレ長岡も市民協働の場としての機能を持ち、イベントなど利用率も高いそうです。

長岡市の将来像として、人口減少・少子高齢化が著しい現在において、まちを持続的に発展させていくためにあらゆる手段を講じなければならないが、この困難をチャンスと捉え「米百俵の精神」の基に力強く前進していくとのことでした。

(感想)

「米百俵の精神」が、歴史上だけの話ではなく、現在の市民にも受け継がれており、凄いと思いました。その発想が、市民の協働として、暮らしの安心と活力あるまちの実現に向けての力となっていることです。

下関市民も、明治維新 150 年がここ下関が多いに関わっていることを認識し、その変える力を市民と一緒に育てていきたいですね。



・一般報告「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

三重県津市長 前歯 泰幸

表題の公共施設マネジメントを進めるうえで、津市の説明がありました、その内容として、以下4つの視点からの話がありました。

1. 合併を決断した住民が目指した公共施設を作り上げること。
2. 公共施設の「不都合な真実」をあぶり出し、向き合うこと。
3. 市民との対話から聞き取った思いや願いを反映した公共施設を作ること。

- 市民活動が自立化する方向で協働をすすめること
4. 相互理解の原則
市民活動と行政がそれぞれの長所、短所や立場を理解し合うこと
 5. 目的共有の原則
協働に関して市民活動と行政がその活動の全体または一部について目的を共有すること
 6. 公開の原則
市民活動と行政の関係が公開されていること

行政も市民団体も緊張感をもって、市民という第三者の評価を意識しながら知恵を出し合っていくことが大切とのこと。

各パネリストの話は、今後の参考になりました。

○行政視察（12時～16時30分）

市民協働のテーマに即した内容の視察でした。

以上